

令和3年度 第2回高知支部評議会 議事録

開催日時 令和3年9月24日（金）14:00～16:00

開催場所 高知共済会館3階「藤」

出席者	被保険者代表	島内評議員、田香評議員、市川評議員
	事業主代表	古谷評議員、吉村評議員
	学識経験者	遠山評議員（議長）、西森評議員

議題

令和4年度支部保険者機能強化予算の策定に向けて

事務局より、資料「令和4年度支部保険者機能強化予算の策定に向けて」に沿って説明。

（学識経験者）

「オフィス de エクササイズ」は集合型の運動教室であるが、集合型によらず在宅ワーク向けなどにオンライン配信できればよいと考える。

（事務局）

来年度の事業計画においては、集合型の「オフィス de エクササイズ」による運動教室事業のほかに、事業所のニーズに合わせた運動セミナー・食事セミナー・メンタルヘルスセミナーなどの各種健康講座を用意し、オンライン配信による健康教室事業を新たに立ち上あげたいと考えている。

（学識経験者）

家族個人が容易にわかるように、お薬手帳ホルダーには氏名記載欄を設けていただきたい。

（事務局）

今年度はすでに作製済みであるため、来年度に作製の際は、お薬手帳ホルダーへ氏名記載欄を設けることを検討したい。

（学識経験者）

メルマガに「季節の健康レシピ」コーナーがあるが、誰もが簡単に料理することができる健康レシピの紹介があれば、よりいっそう健康づくりに取り組みや

すいと考える。

（事務局）

今後の検討課題にしてまいりたい。

（学識経験者）

帯屋町の大型LEDビジョンでのジェネリック医薬品の使用促進広告は、信号待ちで立ち止まった際に見ることができる非常によい事業であると考えが、令和3年度の事業に入っていないのはなぜか。

（事務局）

帯屋町大型LEDビジョンを活用したジェネリック医薬品の使用促進広告は、令和2年度の事業であり、令和3年度は同じ動画を使用しYouTubeを利用した広告を行っている。ご意見を踏まえ来年度の事業計画においては、再度、帯屋町大型LEDビジョンでの広告を検討してまいりたい。

（学識経験者）

経費を削減しつつ努力する姿勢が必要であり、医療機関訪問や事業所訪問など、経費をかけずに医療費適正化の効果が図れる事業を推進していただきたい。また、県の健康パスポート事業などと連携を図ることも有効な手段であると考え

（事務局）

令和2年度に訪問した94の医療機関について、半年後のジェネリック医薬品の伸び率を検証したところ、訪問医療機関の伸び率は未訪問医療機関に比べて1.3ポイント高く、一定の訪問効果を確認した。現在、コロナ禍の影響を受け、訪問活動を一時中断しているが、引き続き、医療機関訪問によるジェネリック医薬品使用促進や事業所訪問による健診・保健指導勸奨を実施してまいりたい。また、県の健康パスポートアプリによるウォーキングイベントに共催で参加し、加入者の健康の保持・増進に努めている。

（学識経験者）

高知支部は、化学療法剤のジェネリック医薬品使用割合が、他の薬効の全国差と比べても突出して低いが、原因はいかなるものか。

（事務局）

化学療法剤のジェネリック使用割合が低い原因は分析できていない。原因が分か

り次第、評議会でお伝えする。

（学識経験者）

糖尿病の治療放置者に対しては、重症化すると人工透析につながり、生活面・経済面で大変な事になることを自覚していただくため、インパクトのある広報発信をしていただきたい。

（事務局）

体験談や挿絵などを挿入したもう一步踏み込んだ受診勧奨広告を検討してまいりたい。

（学識経験者）

国民皆保険制度の意義を若年層へ伝えるため、学校での出前講座ができないものか。

（事務局）

今後の課題とさせていただきます。

（被保険者代表）

支部保険者機能強化予算の各分野が 7 項目、各事業が 44 項目に渡るところであるが、重要課題を位置づけした予算配分などがあるものか。また、第 5 期保険者機能強化アクションプランの事業運営の 3 つの柱に対応するものか。

（事務局）

支部保険者機能強化予算は、支部医療費適正化等予算と支部保健事業予算に区分され、支部の加入者数に応じた予算枠が設定される。重要課題を位置づけした予算配分はなく、予算枠の範囲内で分野ごとの予算を定めることができ、第 5 期保険者機能強化アクションプランの事業運営の 3 つの柱のうちの戦略的保険者機能関係に沿うものである。今回は、各事業の重要度が分かるように資料の見直しを図りたい。

（被保険者代表）

公立の医療機関が院内処方しているジェネリック医薬品を地域の調剤薬局と共有し、そのジェネリック医薬品を使用することによって患者に安心感が生まれ、使用促進につながるものと考えている。また、乳幼児の親へ向けてのジェネリック医薬品使用促進事業があるが、出産前の親へ向けての事業発信も有効であると考えている。

（事務局）

県のホームページで高知大学病院等の院内で採用しているジェネリック医薬品の品目を公表している。また、協会のホームページにおいても、使用頻度が高いジェネリック医薬品の品目を公表しているところであり、ジェネリック医薬品を採用する際の参考として活用いただくよう地域の調剤薬局へ広報周知を図りたい。

（事業主代表）

医療従事者のジェネリック医薬品使用割合が低いデータにみられるように、ジェネリック医薬品の使用促進においては、医療提供者の意識改革が非常に重要と考える。

（事務局）

医療機関を訪問すると、ジェネリック医薬品を信用しない医師の方が一定数おられる一方、ジェネリック医薬品への切り替えに協力いただける医師の方も一定数おられる状況である。今後も地道に医療機関への訪問と加入者への広報周知に努めてまいりたい。

（事業主代表）

健診結果通知が来てもすぐに開封せず放置することがないように健診結果の重要度が分かるように封書の色を変えて健診結果を通知し注意喚起を促すような工夫をしてみてもどうか。また、事業主からの健康メッセージを給与明細等に記載するなどして発信することも効果があると考えます。

（事務局）

よいアイデアと考えます。ご提案を踏まえ今後の事業展開を検討してまいりたい。

（被保険者代表）

若年層のジェネリック医薬品の使用割合が低い背景はいかなるものか。

（事務局）

子育て支援施策により、各市町村において若年層にかかる医療費の助成事業が行われており、自己負担がかからない状況下において、先発医薬品を選択する傾向があるもの。

（学識経験者）

若年層が先発医薬品を選択する状況は、患者側、医療提供側のどちらに問題があると考えられるか。

（事務局）

高価な先発医薬品を選んでも負担がかからない患者側の問題と捉えるが、一方、個人病院数が多い高知県においては、処方する医療提供側の問題も一考する余地がある。

（事業主代表）

ジェネリック医薬品を推奨する調剤薬局への認定制度はあるか。

（事務局）

ジェネリック医薬品を推奨する調剤薬局への認定制度はないが、県においては、医薬品や健康に関する相談・支援が受けられる薬局として「高知家健康づくり支援薬局」の認定制度がある。

（事業主代表）

若年層のジェネリック医薬品の使用促進に対しては、法人会が租税教室を行っているように、学校の行事に組み込んで、ジェネリック医薬品の存在意義を伝えることが必要であると考えます。

（事務局）

今後の検討課題としてまいりたい。

（学識経験者）

若年層のジェネリック医薬品の使用促進に対しては、小児科医から親への助言効果が大きいのと考えるが、小児科への訪問状況はどうか。

（事務局）

医療機関訪問においては、ジェネリック医薬品に切り替えることができる数量が多い医療機関から回っており、小規模な医療機関が多い小児科への訪問は、数か所にとどまっている状況である。今後、順次働きかけをおこなっていきたい。

連絡事項

次回評議会は、令和3年10月29日に開催予定。